

AMD A 見
記者 会

救援作業「難しかった」

ハイチでの コロナ予防 長期的支援が必要

コロナ感染が拡大するハイチで緊急医療支援にあたった国際医療救援団体「AMD A」（本部・北区）の菅波茂代表が22日、北区の国際交流センターで記者会見し、「コロナ予防に不可欠な隔離措置や安全な水の確保が難しかった。長期的支援が

求められる」と話した。死者は2500人を超え、AMD Aが活動したハイチ南西部フォンデネグ市でも近隣の村人たちが「コロナで死者が出たと訴えていた」（菅波代表）。市内の病院内では隔離が必要なコロナ患者と他の病気の患者が同じ部

屋で治療を受け、住民たちは「感染が広がりやすい」とされる深さ5畳前後の浅井戸で飲み水を確保していた。コロナ感染した小さな子供のベッドに付き添う母親はTシャツと短パン姿のまま、感染防止策をとることなく、子供の手を握り続ける。海外の地震や津波などで何度も緊急救援を経験した菅波代表にとっても今回はとまどいの連続で、会見中、何度も「難しかった」を繰り返した。

内政の混乱が追い打ちをかけた。1月の大地震の復興は進まず、11月の大統領選挙後、



各地で暴動やデモが頻発している。菅波代表は「統治機構が安定すれば感染症対策も打てるが、現状では難だろう。さらなる拡大はある」と話す。AMD Aは、医療